

三重遠征レポート 2004&紀伊半島の磯釣りガイド

by Hirogaki

8月10日(火) 梶賀(高見)

お盆の帰省を利用して、北山さんと三重遠征を決行。

8月でも40オーバー、50オーバーが期待できる梶賀にやってきた。(ただ、渡船屋の釣果情報を見ると、8月に入ってパタッとメジナの釣果を聞かなくなり、一抹の不安があったのだが・・・。)

三重県の紀東地区は、関東と違ってこの時期は12時出船、日没に納竿という“半夜釣り”が主流。

コマセも、ボイルのオキアミをそのまま撒き、付け餌もボイルを使うのがセオリーだとか。曰く、ボイルの方が餌持ちがよく、メジナの棚に届きやすい、また、ポイントは殆んど磯際なので集魚剤は必要ないとの事。

“郷に入れば郷に従えと”言うことわざに従い、R42沿いにある“つりエサ市場”という餌さ屋でボイルのオキアミ9Kg(3Kgで@1050)を買い込んだ。

“つりエサ市場”は三原憲作さんのお店で、駐車場が小田原マリンの駐車場の5倍ぐらいある、大きなお店。釣り客は、磯釣りに行く人の他、筏でクロダイを狙う人、海上釣堀で青物を狙う人等が入り乱れており、生きアジを買う人や、ボケという蝦蛄の子供のようなやつを買う人たちで活気にあふれている。

ちなみに、この地方にはいわゆる釣名人が3人、紀東地区(伊豆で言えば東伊豆)の三原憲作さん、南紀地区(同じく南伊豆)の森本敬介さん、中紀地区(同じく西伊豆)の藤原義雄さん、と居て何れも釣具店を経営している。

“つりエサ市場”は伊勢自動車道の勢和多気ICから15分程の所にあるが、ここから梶賀までは約80Kmを一般道で走ることになる。とはいっても、この道は中伊豆ルートと同じような感じで、夜だと巡航速度80Km位で走れてしまう。(笑)

途中の尾鷲で、自分たちの食料、飲み物を調達し(ここを過ぎればコンビニは無い)、梶賀にはお昼前に到着。



梶賀港

梶賀には3軒の渡船屋さんが有るが、出港時間は決められているものの、入間のような場所取り競争も無く、磯割りも無い。なんとなく、出港して、適当に磯渡しをするという、のんびりムードが漂う。

というのも、梶賀の渡船区は広く(入間と中木を足した位の広さがある)、100人ぐらいは裕に収容できるキャパが有る。また、梶賀の磯は殆んどが渡船利用の地磯で、中には足下から30m以上の水深がある地磯もある。(児島怜子が61cmの尾長を釣った、“神須の鼻”も足下から20m。)

それと、これは紀東地区全体に言える事だが、西側に2000m級の山がある関係で、西風にはすこぶる強い。(逆に言うと、東向きの風には弱いので、“ナライを呼ぶ男”は歓迎できないかも。)



神須の鼻

12時に港を出航、渡された磯は“高見”という地磯。

高見は小さな岬状の地磯で沖向きは水深10m程と思えたが、地方寄りにはゴロタ場で水深が2ヒロほど、夜釣りのポイントとしては良さそうな感じだが、地磯のせいか潮の流れはあまり無い。地方寄りにはタマズメ用にとっておいて、沖向きのポイントで釣りを開始。

バックカンに海水を入れ、その中に凍ったボイルのオキアミのブロックを浸し、溶かしながら、底に沈んだオキアミを選んで撒き餌

にする。夏場は直ぐに溶けて使えるようになるが、夏以外はあらかじめ餌さ屋で解凍予約しておかないと、使い物にならない。また、海水を十分に含ませないと、オキアミが浮いてしまい、やはり使い物にならない。

十分に海水を含んだオキアミを磯際に撒くと、集魚剤を入れていないにもかかわらず直ぐに、カワハギ、ハコフグ、ハタンボという餌さ取りがやってきた。(くー、ここまで来てもハタンボかー。泣)

この日の仕掛けは、M2の2号53に、道糸4号、ハリス4号という、梶賀の標準タックルで挑んだ。

ハリスを2ヒロ取り、遊動部0.5ヒロでウキは環付きLの0、針はタナグレの8号を選び、ガン玉を打たずにスタート。



高見



北山 at 高見

潮は澄んでいて、約10mと思しき水深の底が何とか見える。

コマセを撒いて、魚を観察するが、メジナの姿は見えない。

この日は、磯際を中心に棚2~2.5ヒロで、ハリスに3Bを3段打ちしたり、完全フカセにしたりして狙ってみたが、もともと際の釣りは苦手ということもあって、際には餌さ取りをかわせず。

結局、サラシの先や際で食わせた、木っ端メジナ(20~27cm)5尾と、20cmクラスのカワハギ、シマアジという結果となった。ぐすん。(・_・、)

午後6時30分に船が迎えに来て、港に帰った後、翌日のコマセを調達するために、近くにある森本敬介さんのお店、“フィッシング・モリモト”に寄ると、幸いにもご本人が店番をされており、しばし釣り談義。

森本さん曰く、「この時期はハリス1ヒロで3Bを3段打ちして、際を狙うのがセオリー。2ヒロは深すぎるねー。」とのこと。

よーし、明日は1ヒロ、3Bの3段打ちでやってやると、心に誓い初日を終えたのだが・・・。

(ちなみにこの日は、梶賀の磯を貸しきり状態で、上物師は我々2人だけでした。)

8月11日(水) 梶賀(竜宮)

よーし、今日こそは際で40オーバーのメジナを釣るぞー、と勇んでやってきた。

港で準備をしていると、同船者の中に、GUREKOのワッペンをライジャケに貼っている人がいた。ライジャケをよく見ると、“京都磯連 梶田”と刺繍がしてある。船に乗り込むと、その梶田さんが、「GUREKOウキを使っているんですか?」と、声をかけてきてくれた。どうやら、我々のクーラーボックスに張ってあるGUREKOのステッカーが目に入ったようだ。「GUREKO神奈川支部です、本部の方ですか?」と答えると、「私はGUREKOのチームじゃないんですが、西村オーナーが京都磯連の会員なのでよく知っていますよ!」との返事、ふだんは若狭地方をHGにしているが、この時期大物を狙うんだったら梶賀と言う事でやってきたとのこと。GUREKOウキ愛好者同志と言う事で、話が弾んだ。

昨日と同じく、12時に出船したが、この日は早くも台風の影響でうねりが出始め、沖磯には出られず、湾内奥の“竜宮”という、地磯に降ろされた。

磯に下りた時点で早くも戦意喪失状態に、というのも、この竜宮と言う場所は湾奥にあるだけに、全く潮が効いておらず、まるで堤防で竿を出しているような雰囲気。メジナの気配が全く無いまま、コマセを撒いていると、コマセに群がる小魚を狙って、アオリイカがやってきた。磯竿を置いて、こんな時の為にロッドケースに入れてあ



竜宮

るバスロッドに餌木を着けてこのアオリイカを狙ってみたが、やはり生餌の方が好みらしく、餌木には反応なし。そうこうするうちに、ボラが寄りだした。気晴らしにボラでも釣って遊ぼうかと思い、磯竿に持ち替え、棒ウキ+ちもとにG3のガン球というクロダイ仕掛けに組み替え、仕掛けを入れてみると、数等目にウキがスーッと入って行き、軽く合わせてリールを巻いてみると、なんと上がってきたのはクロダイ。

慌てて真剣モードに切り替えて、やりとりして、北山さんにタモに入れてもらい、40cmの磯チヌをGet。



磯チヌ 40cm

今年の目標は、40オーバーのメジナと磯チヌだったので、プロセスは別にして念願がかなって大満足。

結局、このクロダイで竿頭になり、渡船屋のHPを飾ることが出来た。

↓釣果写真の2004年8月に載っています。^^;)

<http://www.ztv.ne.jp/mxgswxry/>

ちなみに、二匹目のドジョウを狙って、仕掛けを振り込んで、きっちり60オーバーのボラを釣りました(笑)。

こいつは、引いたー。LBDのドラグが出まくりました。

以上、三重遠征レポートでした。

(補足レポート)

【ボイルのオキアミ】

ボイルのオキアミは気に入りました。まず、何と言ってもバツカンが汚れないし臭くない、後片付けも海水ですっと洗い流すだけです。

餌さ持ちも良い様で、餌さ取りにかじられながらも結構下のほうの棚まで届くみたいです。使ってみて、なぜ関東には置いていないのだろうと不思議に思えた次第です。(タカラに置いてくれないかなー。)

【磯の雰囲気】

磯の雰囲気は、地磯が多いこともあって、潮ががんがん通す感じの所は少なく、いかにも口太場という感じの所が多いです。(梶賀の、尾長のレコード61cmに対して、口太は66cmです。)

今年の梶賀は8月に入って、絶不調で40オーバーは上がっていない様です。(渡船屋のHPによると、去年は50オーバー120枚、40オーバーは5月~7月だけで3000枚!)

梶賀のお隣の尾鷲の方が好調で、8月14日(土)に49cmの口太が上がっていました。尾鷲は大きな湾内にある釣り場で、数年前までダイワのグレマスターズの決勝の舞台でした。波・ウネリ4mという予報の時でもここだけは船は出るという、ある意味で紀伊半島の外浦とも呼ぶべき釣り場です。

【魚種・魚影】

北山さんが話しをした、地元の釣り人の話では、紀東地区のメジナは尾長と口太の混血が多いとのこと。(歯がどっちのタイプかが気に成りますねー。)

また、この地方は伊豆と比べて、カワハギ、アオリイカ、クロダイの魚影はすこぶる濃いです。

コマセを撒くと、必ずといっていいほど餌取りの中に25cmクラスのカワハギが数匹混ざってきますし。アオリイカも毎回目撃しました。

8月14日に“神前浦”の堤防にクロダイ狙いで行ってみたら、50クラスのクロダイを10尾位目撃しました。



中には、60cmはあるのではという巨大な奴もいました。ただ、こいつらは、オキアミには見向きもしません。地元の釣り人曰く、堤防に付いているカニか、貝でないと食わないとの事です。(この日は、ハリスを1号まで落として、何とかカイズを2尾の釣果でした。)

以上

悠々と泳ぐ50クラスの黒鯛の群れ。4尾、見えますかー？